

開催報告

種 別	2023年度第2回公開シンポジウム
開催日時	2024年 3月 13日(水) 14時00分 ~ 18時00分
開催形式	対面開催
対面会場	中央大学市ヶ谷キャンパス1101号室
講 師	(1) 佐野 仁美 氏 (慶應義塾大学政策・メディア研究科研究員) (2) 松田 康男 氏 (比較思想学会評議員)
テ ー マ	(1) 「情報文明のAI」 (2) 「許されざる人工知能(「AI」)・許されるAI」
参加者数	9名

<報告要旨>

(1) 西洋科学文明のあり方と西洋科学文明の中の人間を定義したうえで、2024年現在の人間のあり方について考察した。

「AI脅威論」を唱えるなど、特に生成AIの広まり以降は顕著にAIの利便性と脅威性の二面性に着目し、AIとの共生の道を模索している。かつて万能感に包まれていた人間の立ち位置が不明瞭になり始め、AIの進化を契機に文明としてのアイデンティティを喪失しかけている。

しかし、人間とAIの関係性を明確に客観視するためには、新しい情報文明の中でのAIと人間の立ち位置を見直すことが重要である。

AIの技術史から、技術と人間社会の進歩の可能性を探った。

(2) 人工知能開発における危険性の回避とその有効利用に関する哲学に関し、多方面から考察を行った。

講師の提案は、「自然親和的技術への転換」という文明論を「人間生物学的基礎」という内面にも拡張し、その中核を「無意識」に置いたものを「文明論」とし、それを許されざるAI(AI利用)か否かの「判断基準」にするというものであった。また更に、「無意識」を含む「実感」を現象学的心理学の現象学的還元によって明らかにした種々の例を公表して、自己のAI利用が「判断基準」を満たしているかどうかをモニターできるようにするというものであった。

文明論をベースにAIを考える試みについて考えを深め、AIと人間のどのような共生が可能かについて検討した。